

## 知的障害のある児童生徒のための指導と評価の在り方

千葉県立君津特別支援学校

電話 0439-55-4333

FAX 0439-55-7859



### 研究のポイント

知的障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりと評価方法の開発

#### ■学校の概要 <http://cms2.chiba-c.ed.jp/kimitsu-sh>

昭和54年に知的障害の養護学校として開校し、木更津市、君津市、富津市の三市を学区とした小、中、高等部と重度重複障害の児童生徒で編制したみどりグループがある。さらに、院内学級及び病弱、精神疾患等の児童生徒を対象とした「通級による指導」、施設に併設した分教室での指導も行い、地域の総合的な特別支援学校としての役割を担っている。また、今年度の児童生徒数は248名で、児童生徒の増加による過密化への対応が喫緊の課題となっている。

#### ■研究課題

児童生徒の障害の多様化に伴い、個々の教育的ニーズを踏まえたよりきめ細かな教育課程の編制が必要となっている。こうした現状から、今年度は一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりと新学習指導要領の観点に基づいた評価の指標づくりに取り組むこととした。

#### ■研究の目的と方法

##### 【授業づくりについて】

〈目的〉授業を5つの視点から見直し、一人一人の教育的ニーズに応じた授業の在り方を明らかにする。

〈方法〉昨年度の研究で得られた「授業づくりに必要な5つの視点」に基づき、授業を組み立て、実践し、振り返ることで、一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりを検証する。

※5つの視点：適切な実態把握、場の設定、教師の支援、保護者との連携、教材教具づくり

##### 【評価方法の開発について】

〈目的〉単元への取組を通して、児童生徒にどのような力がついたかという評価の在り方を明らかにする。

〈方法〉新学習指導要領の3つの柱を意識した単元(題材)の目標を設定し、単元(題材)の終了後の具体的な児童生徒の姿を、「前の学びからどのように成長しているか」「より深い学びに向かっているか」ということを捉えた指標づくりをする。

※3つの柱：○知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等

## ■研究概要

### I 研究実践

#### 1 テーマについての共通理解

【教育的ニーズのとらえ方】	【学習評価の捉え方】
○一人一人の児童生徒が学びやすい環境 ○一人一人の児童生徒が必要とする学習内容	○児童生徒にどのような力が身についたかという学習の状況や成果を評価する。 ○単元後の具体的な児童生徒の姿で、その成長や身についた力を評価する。

#### 2 実践の流れ(※㊦:評価に関わる項目)

- ①児童生徒一人一人の授業に関する実態把握
- ②実態把握に基づいた「教育的ニーズ」の共通理解
- ③「教育的ニーズ」に基づいた学習内容、目標、方法の設定  
(授業づくりに必要な5つの視点を意識して)
  - ㊦目標設定…新学習指導要領の3つの柱を意識した単元(題材)と本時の目標の設定
  - ㊦評価表の作成…新学習指導要領の目標、内容、段階を基に評価表を作成
- ④一人一人の教育的ニーズの共通理解にもとづいた授業実践
  - ㊦職員の共通理解…評価表をもとにした目標及び配慮事項等の共通理解
- ⑤授業及び単元を通しての振り返り
  - ㊦授業後の評価…児童生徒一人一人の姿を評価表に照らして評価する。
  - ㊦単元後の評価…児童生徒にどのような力がついたかという学習の成果を評価する。

#### 3 考察

##### 【授業づくりについて】

適切な実態把握から教育的ニーズを導き出すことが大切である。加えて、授業づくりに必要な教育的ニーズとは、以下の事項についても考えることが必要である。

- ・常に児童生徒一人一人の視点に立ち、児童生徒自身が必要とするもの
- ・保護者や関係者などの視点
- ・「障害・障害種」という枠組みを超えた、学習における多様な困難さの理解
- ・個人の要因だけではない環境要因の側面からの検討

##### 【評価方法の開発について】

児童生徒にどのような力がついたかを評価するためには、児童生徒の変容に加えて以下の評価が必要となる。

「授業評価」「単元評価」「学習過程における評価」「教師の指導評価」

### II まとめ

授業を5つの視点から見直すことで、一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりをすることができた。評価については、新学習指導要領を基に評価表を作成したが、今後その内容を吟味することやどう活用するのかが課題となる。